La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第308号　　2023年4月20日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro
461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニーブル新栄301号
公式サイト　http://nagoya-esperanto.a.la9.jp/
Facebookページ　https://www.facebook.com/nagoja.esperanto
郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」

ミニ講演会風景

◀◀　目次　▶▶

維持員総会の記録 2
センター委員長からのご挨拶（小川博仁） 9
翻訳テンマツ記（森田明） 10
VIZIOJ AFEKTAJ　ILUZIOJ AFLIKTAJを読んで（山口眞一） 11
八ヶ岳エスペラント館にようこそ（伊藤俊彦） 12
ホリゾント塾のこと（伊藤俊彦） 15
書評：DIO NE HAVAS EKLEZION（水谷良典） 17
Mesaĝo de UEA: la Internacia Tago por Eliminado de Rasa Diskriminacio 18
ミニ講演会報告・活動日誌 19
ご意見・近況・編集後記 20

維持員総会の記録

概要

場所　名古屋エスペラントセンター事務所
日時　3月12日（土）17時〜19時
議長　今井田健二
書記　湯浅典久
現出席12名（内リモート4名）＋委任状19名＝31名
（維持員総数43名のうちの過半数で総会成立）

（1）事業報告

（1-1）インターネット関連

（1-1-1）ウェブサイト

- 2022年12月15日　[行事案内・報告]2022年ザメンホフ祭の報告 を追加。
- 2022年11月27日　[通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加。（300号）
- 2022年11月16日　[行事案内・報告]行事案内 を更新し、ザメンホフ祭の情報を追加。
- 2022年10月27日　[講習会・学習会]学習会（講習会）を更新。
- 2022年5月14日　[掲示板]teacup掲示板のサービス停止に伴い、新しい掲示板を設置。
- 2022年4月30日　[通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加。（299号）
- 2022年4月28日　出版会解散に関する告知（PDFファイル）を掲載。
- 2022年4月26日　[NEC案内]委員会メンバー を更新。

上記の通り、9回の更新を行った。（昨年度の更新回数は10回）

（1-1-2）Facebookページ

- 「いいね！」210件（前年対比+5）・フォロー数221人（前年対比+4人）
- 2022年は17本の記事がアップされた（前年対比+6）。イベント報告、読書会関連情報など（伊藤8本、山口7本、山田1本、前田1本）
- 一定の定着はしているとみられる

（1-1-3）メーリングリスト　[esperantistoj_de_tokai]

- 投稿総数5件（前年対比−7）
- 情報交換や意見交換の場として設けられているが、事実上NECからの告知の場となった。

- 配信メンバー43人（前年と同数）

（1-1-4）掲示板

- 4月まではTeacupを使用していたが、サービス停止のため5月からfc2の掲示板を利用。
- 14件の記事。うち12件はすべてセンター事務所使用予定（活動予定）。2件は個人学習者からの投稿（意図不明な投稿もあり。頻繁な対応はしかねる）
- もともと、事務所の使用予定の把握管理を目的としていたが、事務所外での講習や学習の情報も掲載する意図で、11月から「活動予定」とタイトル変更した。

（1-2）企画教育

（1-2-1）中級講習会

毎月　2回（1回のときもあり）　17:30~19:30（全22回実施）

参加人数：4名

講師：小川一夫

内容：雑誌記事やネット記事のコピー。自由作文。Fundamenta Krestomatioなど

（1-2-2）入門講座

第5期：11月から2023年1月まで5回

講師：永瀬義勝

参加人数：3人

教材：「エクスプレス・エスペラント語」

受講料：5000円

（1-2-3）初級講習会

実施なし

（1-2-4）個人授業

8/15, 16, 19日 19時から21時

講師：永瀬義勝

（1-2-5）愛知サマーセミナー（講座「国際語エスペラント」）

7/17 愛知サマーセミナーに講座「国際語エスペラント」を出講

会場は東邦学園大学

講師：小川博仁、他スタッフ5人

受講9人（前年対比+6）

責任者：山口眞一

（1-2-6）ワールドコラボフェスタ

3年ぶりの出店

10/22 ブース出店

オアシス21「銀河の広場」
スタッフ8人
およそ100人の来場者と交流
責任者：後藤みわこ

（1-2-7）ザメンホフ祭
12/11 事務所にて
司会進行：山口眞一
12人
内容　（1）全員のスピーチ
（2）歌（「四季の歌」「大きなうた」）と
動画（e-istoユーチューバー、動画コンテスト作品）の視聴
（3）本の紹介（山口、水谷、中山）
懇親会には7人参加

【意見】愛知サマセミ、ワールドコラボフェスタ、入門講座を有機的につなぐ必要がある。生涯学習センターの利用も。
愛知、岐阜、三重の中でゆるい関係でも東海大会を再開してほしい。

（1-3）機関紙

（1-3-1）各号の内容

第303号／1月27日発行　6ページ
蔵書への提案と展望（永瀬義勝）／「センター通信」全バックナンバーを合本製本／コロナに負けずにオンライン会話の会（伊藤順子）／ザメンホフ祭報告／活動日誌・維持員総会お知らせ・編集後記

第304号／4月27日発行　16ページ
維持員総会の記録／Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (11) (Huĝimoto Hideko)／まぼろしを幻と知りつつも・・・言語障害治療法としての翻訳（森田明）／梶弘和先生の思い出（米川五郎）／牧野三男編楽譜集『萌える若草　Arboj verdas nun』（山田義）／仏教聖典改訳第3版について（山口真一）／Sinprezento de nova membro（Naomi Hiraishi）／活動日誌／出版会解散告知・編集後記

第305号／7月27日発行　16ページ
愛知サマーセミナーにエスペラント講座（山口真一）／愛知サマーセミナーの講師を終へて（小川博仁）／サマセミ受講生の感想／LINEを使って毎日読み合う（山田義）／La strukturo de Esperanto kiel faktoro por certigi ĝian funkcion rilate al Lingvaj Rajtoj (Kadoja Hidenori)／Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (12) (Nakayama Kinzi)／Unu bombono kostas 1000 enojn!

（ Nakayama Kinzi）／活動日誌・活動予定／エスペラントに関する投稿（中日新聞）／エスペラントの日ポスター・編集後記

第306号／10月27日発行　14ページ

ワールドコラボフェスタ（堀田裕彦、後藤みわこ）／日本エスペラント大会の感想（水谷良典、小川博仁、伊藤俊彦、今井田健二、湯浅典久、後藤みわこ）／第107回世界エスペラント大会宣言（今井田健二訳）／対訳『私たちは生きる！　Ni Vivos！』について（黒柳吉隆）／Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (13) (Katayama Hiroko)／活動日誌・活動予定／編集後記

(1-3-2) 総括

◎発行回数は昨年度と同様、総頁数52（前年より6減）。

◎クラウドストレージ（box）に、最新号も含めて全バックナンバーあり。
センター委員のうちの希望者にシェア（閲覧権限付与）されている。
委員外の維持員にも閲覧権限を与えるべきか？

◎ウェブサイト上でのバックナンバー公開は300号までしかされておらず、遅れ気味。

（1-4）蔵書

写真撮影済み2,500についてはJEIの図書リストをベースにデーター入力を終えた。今後、3人分のデーターを統合してリストを作成し、duoblaも調査する。

【意見】九州大会（長崎）で「物故者の蔵書をどうするのか」のシンポがある。横浜、名古屋から出席。永瀬氏が行く。リストを使える状態にしてほしい。

（1-5）読書会

(1-5-1) 日時・会場

2022年の日程は以下のとおり。前年度に引き続きZoomによるオンライン開催となった。

１／25、２／25、３／22、４／26、６／28、７／26、８／30、９／20、10／18、11／22、12／20　合計11回開催。

(1-5-2) 参加者

毎回４～７名。

(1-5-3) 進め方等

毎回、予め指定された範囲（６～７ページ程度）を予習し、当日は参加者が順番に１ページほど読んだ上で内容を要約し、その後、テキストの解釈をめぐって自由に発言し、討論するというやり方で進めた。

(1-5-4) 実施状況の報告・次回の予告

読書会の内容を名古屋エスペラントセンターのFacebookで随時報告している。2022年は、７／27、11／25の２回報告。なお、４／28に参加者の山田義からコ

メントの投稿があった。
また、センターのホームページの掲示板で毎回の日程を掲載している。

(1-5-5) テキスト

読書会Ni legu は2014年６月12日発足以来、間もなく９年になろうとしている。これまでに読んだテキストは以下のとおりである。

・Hori Jasuo	“ Raportoj el Japanio 15 ”	2014.6.12～	６回
・Julian Modest	“ Mara Stelo ”	2015.1.29～	５回
・雑誌 Monato		2015.07.28～	７回
・Julian Modest	“ La viro el la pasinteco”	2016.02.24～	10回
・István Nemere	“ Krokize de mia ĝardeno ”	2017.01.27～	７回
・Kalle Kniivilä	“ Homoj de Putin ”	2017.08.16～	26回
・Julian Modest	“ Dancanta kun Ŝarkoj”	2019.12.18-2022.,2.25	18回
・Júlia Sigmond	“ Júlia Sigmond 90 ”	2022.03.22-12.20	９回

(1-5-6) まとめ

コロナ禍と日本大会準備のため、2020年１月28日を最後に休会。その後、11月24日以来、毎月オンラインで開催。月に１回と回数も少なく、遅々とした歩みながら、参加者全員でエスペラントのテキストを読み、作者の意図や時代背景を考えつつ議論している。

なお、横浜エスペラント会の読書会では、３か月に一度、予め１冊の本を参加者全員が読み、それについて議論し、感想文を機関誌に掲載している。例えばそうしたやり方もできたらと個人的には考えている。

（２）決算報告

(2-1)決算書

2022年度決算書（会計年度　2022年1月～12月）

収入の部

科目	予算	決算	増減
前年度繰越金	533,126	533,126	0
現会員（46）	468,000	547,500	79,500
新再会員(2)	70,000	18,000	-52,000
寄付	100,000	54,377	-45,623
事業収益費	30,000	10,890	-19,110
本の売上	100,000	1,500	-98,500
その他	0	18,000	18,000
計	1,301,126	1,183,393	-117,733

支出の部			
科目	予算	決算	増減
家賃	448,800	448,800	0
共益費	158,400	158,400	0
保証協会	7,596	7,596	0
電気代	108,000	119,681	11,681
通信作成代	23,000	12,470	-10,530
郵送代（切手代）	35,000	24,759	-10,241
蔵書製本費	22,000	0	-22,000
図書購入費	10,000	880	-9,120
サーバー使用料	25,920	25,920	0
事業費	0	0	0
その他	10,000	14,383	4,383
小計	848,716	812,889	-35,827
次年度繰越金	613,686	355,311	-258,375
計	1,462,402	1,168,200	-294,202

（2-2）貸借対照表

貸借対照表（2022.12.31）				
資産の部		負債資本の部		備考
郵便振替口座	142,766	借入金	369,699	出版会より
ゆうちょ銀行	4,835	前受金	665,000	会費前払分
三菱UFJ銀行	109,222			
現金	98,486			
未収金	53,500	通算損失	-625,890	
合計	408,809	合計	408,809	

（3）事業計画

〇入門講座
〇ワールドコラボフェスタ
〇愛知サマセミ
〇ザメンホフ祭

以上に関しては必ず実施したい。これ以外は、案が出た時に個別検討する。
事業ごとに担当者を決め、委員長がとりまとめる。
担当者は企画書を提出するものとする。

（4）予算書

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	355,311	家賃	448,800
現会員	550,000	共益費	158,400
新再会員	90,000	保証協会	7,596
寄付	100,000	電気代	100,000
事業収益費	30,000	通信作成代	18,000
本の売上	30,000	郵送代（切手代）	30,000
その他		蔵書製本費	10,000
		図書購入費	10,000
		サーバー使用料	25,920
		その他	10,000
小計	800,000	小計	818,716
		次年度繰越金	336,595
計	1,155,311	計	1,155,311

（5）委員選出

下記の11名を選出しました。
小川博仁、山口眞一、今井田健二、湯浅典久、堀田裕彦、伊藤俊彦、永瀬義勝、
鈴木善彦、後藤みわこ、藤本日出子、水谷良典（新）

総会に続き、第1回センター委員会で委員長及び副委員長を互選し、総会において承認を受けました。

委員長　　小川博仁
副委員長　　山口眞一、今井田健二

2023年度 センター委員長からのご挨拶

小川 博仁

この度、新たに名古屋エスペラントセンター(=NEC)のセンター委員長を拝命しました小川 博仁(OGAWA Hirohito: をがは・ひろひと)と申します。副委員長は山口 眞一/今井田 健二のご両名です。

今までおよそ20年の間センター委員長を務められたヴェテランの山口氏に比べますと、まだまだ年季がたりない「ペエペエの新米委員長」ですが、精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻を賜りますやうよろしくお願ひ申上げます。

猛威を振るったコロナ禍もやうやく一息つきつゝあり、マスクを外した人もちらほら見かけるやうになりました。それにともなひ各種の会議や集会も Zoom 全盛から徐々に直接の対面のそれへと移行しつゝあります。もつともオンラインの簡便性や経済性を体感・体験してしまった身としては、対面での直接伝達性の魅力を充分に理解しながらも、完全にコロナ以前の時代の「物理的集会のみ」に逆戻りすることはできますまい。これからはオンラインとオフラインとの併用方式が主流となることでせう。思へば我ら東海地方の面々は2020年9月のJEK（日本エスペラント大会）名古屋大会で既にこの方式を成功させてをります。

昨年は夏の愛知サマーセミナーと秋のワールドコラボフェスタが対面方式で開催され、センターも参加して大いに手応えを得られました。今年も引き続き参加を検討いたします。

まうひとつの明るい話題としては、前年比で10名の会員が増加したことが挙げられるでせう。センター委員の永瀬氏が講師を務められた入門E講習会の受講生に新たにセンターの若い維持員になつていたゞくことができました。引き続き、新会員の開拓を図って参ります。

NECの財政は毎年「赤字」となつてをり、かなり厳しい状況です。何とか早急に打開策を模索する必要があります。みなさまからのお智慧をお聞かせいたいけませんでせうか。

また東海地方のE活動に寄与すべく設立された故竹崎 睦子氏の竹崎基金をもつと活用すべきではないか、と愚考してをります。当基金の現在の3名の管理人の中にはE運動からほとんど遠ざかつておいでの方も見受けられます。或るセンター委員からは、「竹崎基金を NEC で管理しては如何か」とのご提言が寄せられたことを附言しておきます。

本年10月下旬に開催予定のJEKは新機軸となり、川崎市のメイン会場以外にも地方のサテライト会場が設けられて、オンラインで結ばれることになりました。NECといたしましても何らかの形で参加できないか、と思案してをります。

本『センター通信』へのご寄稿、維持員会費のランクアップやご寄附などをはじめとして、維持員の方々、センター委員のみなさまに於かれましては、何とぞNECの諸活動にご協力・お力添へを賜り、本センターをますます盛りたてゝいたゞきますことをお願ひ申上げまして、新委員長ヲガハからのご挨拶の言葉といたします。

[2023-04-14 脱稿]

翻訳テンマツ記

森田　明

昨年4月、「センター通信」誌上に近況報告として、日本文学短編作品の翻訳に励んでいると書いたところ、山口眞一さんはじめ数人の方から「本にしてみては？」と勧められた。もとよりこれは言語機能障害改善のため始めた作業療法の一環だったので、出版のことなど念頭にはなかったが、直後ネットでUEAの機関誌 **esperanto** 7月号に載ったプラハの出版社KAVA-PECH創立30周年を祝う記事を見て興味をひかれた。チェコ語、ドイツ語、英語、それにエスペラントですでに230点以上を刊行してきた個人企業。そういえば私も生きながらえて、いま80歳に達したところ。記念にささやかな冊子を出すのも悪くないではないか。にわかに気分が高揚し、ものは試し、とばかり翻訳原稿を添付したメールをプラハに送ってみると、一週間もしないうちに社主のChrdle氏から返事が届いた。なんと「当社で出版は引き受ける。ただし著作権が有効な作家が3名含まれているから、許可を取ることが条件」とのこと。そうだった！日本での文学作品の版権は作家の没後50年間有効だったのが2018年12月からは「没後70年間」に延長されていたのだった。あたふたと日本著作権協会や出版社に問い合わせ、版権所有者の所在を知らせてもらったまではよかったが、せっかくの電話が不通だったり、返事がもらえなかったりで少しの進展もない。そのうちやや正気を取り戻した私は考えた。見通しのつかない版権問題にこれ以上時間を費やすより、私家版にしよう。「近親者などにごく少部数を無償で配布すること」は日本著作権法に抵触しないはず。私の場合、近親者とは80年の人生で出会ったエスペランティストたちのこと。多くはすでに鬼籍に入っているので、40部あれば十分いきわたる。傘寿記念として受け取っていただければ幸いだ。もはやKAVA-PECHの出版物ではないから、35年の昔、妻の詩集を自費出版したときに使った架空の書店名Éditions du Plaqueminierにお出ましを願った。フランス語で「柿の木」の意味。KAVA-PECH社は訳文の厳密な校閲、表紙デザインの考案などで惜しみない援助をしてくれた。書名として掲げた **VIZIOJ AFEKTAJ ILUZIOJ AFLIKTAJ** は翻訳中にふと口をついて出たダジャレにすぎない。表題ページの下につつましく**5 rakontoj el Japanio de la 20-a jarcento**とあるのが本来の書名。

治療法としての翻訳作業はもう少し続ける必要がある。次は1936年に39歳で世を去った牧野信一が「ギリシャ牧野」という異名を取った絶頂期の名編に取りかかろう。家事と介護のスキマ時間活用は変わらないが、もう書名だけは **Makino la greko** と決まっている。

（2023年1月31日-記）

VIZIOJ AFEKTAJ　ILUZIOJ AFLIKTAJ を読んで

山口　眞一

森田さんから贈っていただき、さっそくに読んでみました。

掲載されている作品の原作は次のとおり。

- 幸田露伴『幻談』
- 牧野信一『繰舟で往く家』
- 内田百閒『青炎抄（二）桑屋敷』
- 林房雄『四つの文字』
- 三島由紀夫『滋賀寺上人の恋』

このうち、『幻談』『繰舟で往く家』については、原作とエスペラント訳を対象させながら読みました。

その前に、『幻談』冒頭部分のみ、森田さんの訳を読む前に自分でも訳してみようと思いつきました。私は文学作品の翻訳などという、（自分にとっては）大それたことを試みようと思ったことなどないのですが、これも勉強だと思ってやってみたわけです。結果分かったのは、森田さんの訳はとても丁寧だ、ということです。たとえば、冒頭の第一段落を訳すのに、私のは72語を使い、森田さんは84語を使っておられます。それはつまり、私は端折りすぎ、あるいは言葉が足りないということ。

また『幻談』には釣りの専門用語が多く、かつ漢文調の言い回しも多いので、近代日本語だからといって決して読みやすくはありません。

> 一径互に迂直し茅棘亦已に繁し、という句がありまするから、曲がりくねった細径の茅や棘を分けて、むぐり込むのです。歴尋す嬋娟の節、翦破す蒼莨根、とありまするから、一〻この竹、あの竹と調べまわった訳です。

こんな調子ですから、現代の私たちにはかなり難解なのですが、エスペラント訳文は一読してパッと理解できます。翻訳という仕事が、単に「別の言語に置き換える」という以上のものであることがこれでわかろうというものです。その例をもう一つあげますと、『繰舟で往く家』に「さあ、出発よ。変な弁天小僧…」というせりふがあります。弁天小僧が歌舞伎の登場人物であることは知っていても、これを私のような凡人が訳すと、固有名詞表記にして脚注をつける、くらいになってしまって、何の面白みもないことでしょう。森田さんはこれを “Mia fulmorapida vesto-ŝanĝo. Ĉu ne estas mirinde? Nun, antaŭen!”とされています。文学の翻訳とはこういうことなのだな、と思った次第です。

八ヶ岳エスペラント館にようこそ

伊藤　俊彦

八ヶ岳エスペラント館は日本エスペラント協会の宿泊研修施設で、山梨県北杜市の標高1000メートルの高原に建っています。冬場は寒さが厳しいため閉館しており、おおむね４月上旬から11月中旬まで開館しています。

私たち伊藤俊彦・順子夫婦は縁あって2017年度からここの運営委員会の委員を務めています。名古屋エスペラントセンター関係者では、永瀬義勝、山田義・シマ子夫妻がかつて委員を務めておられました（義さんは委員長も）。

名古屋方面からは中央本線又は中央自動車道で行くことになりますが、時間がかかるので、あまり訪れる方は多くありません。しかし、非常に快適に過ごすことができるので、ぜひ宿泊していただきたいと思います。

私たちは、開館・閉館委員会や春・秋の八ヶ岳エスペラント館の日、ホリゾント塾などの行事の際に、中央自動車道で３時間半ほどかけて通っています。2022年には９回訪れ、高原生活を満喫しており、ほとんど別荘ですね。行事に参加するほか、日帰り温泉に入浴したり、なじみのレストランで食事したり、高原野菜や果物などを農産物直売所でどっさり買い込んだりしています。

予約状況、予約方法など詳細はホームページ（https://jacugatake.jei.or.jp/）を参照してください。また、ときどきのイベントのニュースなどをFacebookにも掲載し

ていますので、ごらんください。

八ヶ岳エスペラント館の概要を「八ヶ岳だより」に書きましたので、ごらんください。「八ヶ岳だより」はLa Revuo Orienta誌に、開館時期にあわせて掲載しており、以下に転載するのは本年１月号に掲載されたもの（一部改稿）です（ふだんは半ページ）。

八ヶ岳だより
八ヶ岳エスペラント館運営委員会

★2022年を振り返って

2022年11月12日（土）に閉館委員会を行いました。実参加は８人、オンライン参加は５人。2022年の事業報告、会計報告を承認し、2023年の事業計画、会計予算を審議しました。翌13日（日）には、館内の清掃、水抜きなどの作業を行い閉館しました。

新型コロナウイルスの感染が終息せず、2022年の利用者数は182人にとどまりましたが、利用状況の報告記事や写真が毎号のように本誌を飾りました。ご利用いただいた方々に感謝します。

また、春と秋のエスペラント館の日、カレーの日に加え、堀泰雄さんを講師とするホリゾント塾を５回開催し、島崎敏一さんが1930年代に海外のエスペランチストから受け取った手紙を、当時の状況を学びながら解読しました。ウクライナ戦争が続いている現在、危機の時代に生きた人びとの手紙は胸に迫りました。参加者は毎回10人ほど。主催事業であるエスペラント漬け合宿（NEK）は実施できませんでした。

★大いに学び、語り合いましょう

八ヶ岳エスペラント館は宿泊研修施設であり、エスペランチストたちの出会いと対話の場です。他の参加者と寝食を共にして語り合えるのは大きな喜びです。合宿、セミナーなど、どんどん企画してください。

また、図書館棟にはエスペラントの本や雑誌が並んでいます。戦前に刊行された貴重な書籍、蔵書印や書き込みのある本もあります。館内のあちこちに読書のためのスペースが用意されています。

★八ヶ岳南麓を満喫するための拠点に

八ヶ岳エスペラント館のある北杜市内には、清春芸術村、中村キース・ヘリング美術館、清里フォトアートミュージアムなど美術館がたくさんあります。リゾナーレ八ヶ岳、清泉寮や萌木の村など人気施設もあります。農産物直売所、道の駅、日帰り温泉、レストラン、カフェも点在しています。八ヶ岳南麓を満喫するための拠点としてご利用ください。１泊目3,000円、２泊目からは1,500円で宿泊していただけます。

★地域の情報にアクセスしよう

八ヶ岳エスペラント館の周辺の情報として、例えば、エリアごとに情報を満載している情報誌『八ヶ岳ウォーク』があり、年１回、４月に刊行され、年間を通じて観光施設などで入手できます（無料）。その内容はホームページでも見ることができます（https://yatsugatakewalk.com/）。

また、地域で活動している団体の企画に参加することもできます。例えば、八ヶ岳歩こう会（https://ywa.jp/）は年間を通してウオーキングを実施していますので、日程が合えば参加することもできます。

★今年もぜひご利用を

2023年４月９日（日）に開館しました。引き続きホリゾント塾を４回行います。エスペラント漬け合宿の実施可否は５月に決定する予定です。コロナ禍のためオンラインでの活動が増えてきましたが、実際に場を共有する楽しみと喜びは他に代えがたいものがあります。引き続き感染予防に心がけていきますので、ぜひ宿泊・利用くださいますようお願いします。

連絡先：☎ 03-3203-4581 Fax 03-3203-4582
メール：amiko465@yahoo.co.jp（満）HP：https://jacugatake.jei.or.jp

ホリゾント塾のこと

伊藤　俊彦

昨年、八ヶ岳エスペラント館で堀泰雄さんを講師とするホリゾント塾が５回にわたって開講され、私も参加しました。その感想をFacebookに載せましたので、一部改稿の上、転載させていただきます。

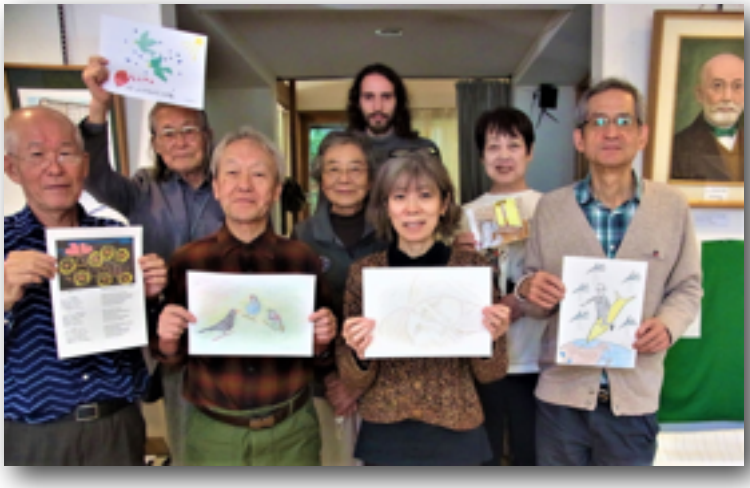
なお、ホリゾント塾は今年度も行われます。７月までの予定は以下のとおりです。参加をご希望の方は伊藤までご連絡ください。

ホリゾント塾１（テーマ：関東大震災）5 月 20 日（土）~ 22 日（月）
ホリゾント塾２（テーマ：重慶爆撃）6 月 10 日（土）~ 12 日（月）
ホリゾント塾３（テーマ：沖縄戦）7 月 16 日（土）~ 18 日（月）

昨年、ある読書会で、1930年代に生きた日本人エスペランチストのもとに海外から届いた手紙を５回ほど続けて読む機会があった。もちろん受信者も発信者も、もはやこの世の人ではない。しかし、手紙のなかでは生きていて、生活の困窮を嘆いたり、世界の変革を訴えたりしている。

われわれはすでに1930年代が行き着いた結末、つまり第二次世界大戦の惨禍を知っている。手紙を書いた人々のうちのある者は弾圧によって殺され、ある者は戦後まで生き延びた。手紙を書いた時点で、危機が迫っていることを予感していた者もいれば、そうでなかった者もいる。

その読書会では、意地悪な講師の指示で、彼らに手紙を書くという課題が課された。もちろん、「客観的」には、すでに亡くなった人たちに私たちの手紙が届くわけではない。いくら語りかけても答えは返ってこないし、彼らに迫りつつある危機を伝えて何とかそれから逃れるよう呼びかけようとしても、もはや決定的に手遅れである。われわれは頭をひねりつつ何通もの手紙を書いた。



しかし、翻って考えれば、そもそも読書とは、その著者がすでにこの世の人でない場合、彼ら死者たちとの対話でもあるのではなかろうか。死者が伝えてくるメッセージを読む者が受け止め、始ま

りもなければ終わりもない対話を続けていくことではないだろうか。

そんなことを考えていたら、歴史学者の藤原辰史氏がある対談で次のように語っていることを思い出した。長くなるが引用する。

《私も、いろいろな人が出会える偶然性の場所をつくり続けていきたいと思っています。その一つの方法が読書会です。本があると居場所ができます。（中略）本を媒介に人が集まり、意見を交換し、討論する。本がもつそうした磁力を大切にしたいと思うのです。そして私は歴史研究者として、過去に生きたさまざまな死者の言葉を今の人に出会わせたい。私は二つの世界大戦があった時代が専門です。戦争で亡くなった人や生き抜いた人たち、そして今を生きる学生たちや住民たちが対話する場所、死者が読書会に参加できる空間をつくっていきたい。（中略）死者の言葉を通してあらゆる種類の人が居場所を見つけ、認め合い、ふと気づけば権力者を囲んでいた—それが私にとっての一つの変革のイメージなのです。》（青木真兵『手づくりのアジール』晶文社、2021年、p132）

そうだとすれば、私が参加したあの読書会（ホリゾント塾）は、「死者が読書会に参加できる空間」だったのだと改めて思う。ホリゾント塾は今年も開講される。そこにも死者たちの魂を招来して、ともに語り合いたい。

ホリゾント塾で取り組んだエスペランチストたちの人生については、堀泰雄『1930年代を生きたエスペランチストたち　Esperantistoj en la 1930-aj jaroj 』（ホリゾント出版、2022年）を参照されたい。紙版は現在品切れ、CD版が発売中。

書評

DIO NE HAVAS EKLEZION

水谷　良典

この本はオーストラリア人 TREVOR STEELE の作品で Esperanto のオリジナルです。舞台はポリネシアの島々の一つで、ハキルーレという島です。島の人々は漁業中心の素朴な生活を営んでいます。一方主人公はブルース･ゴルディングという世界的なフォトジャーナリストで、世界中の戦争地や大災害を取材することを仕事にして鋼の男を誇りにしています。

ある時ハキルーレ島が津波に襲われたという緊急ニュースを聴いて現地に乗込んだ主人公が現地で倒れてしまいました。実は彼は戦地や災害の被災地を駆け巡るうちに精神的・肉体的に疲れてしまっていたのです。その地で現地女性のパルペトゥアに介抱されるうちに自分の鋼の性格に限界があることを悟り自身の孤独な心から彼女に対して恋心を抱くようになり、暗い人生観を変え始めます。また、自身のキャリアのために今まで家族を犠牲にしてきたことを反省するようになります。

一方彼女の父親はキリスト教（カトリック）の神父ですが、彼の妻は現地人女でアニミズム（自然崇拝）を信仰しています。

また、ハキルーレ島が大災害に襲われたことをチャンスととらえ、裕福な観光客向けのリゾート施設を建設して一儲けしようという企業が出てきます。そして主人公は彼らが島民の調和のとれた、環境にやさしいライフスタイルを破壊していることに気づきます。

自然災害に見舞われた上に企業の思惑に振り回される島民を救うべく主人公がたちあがり、島民の出身地である別の島への移住を決め、そして企業とも交渉して食料や移住のための船を準備させるのです。

ラブストーリー、宗教問題、惨事便乗型資本主義(ショックドクトリン)が絡み合いながらストーリーが展開していき、読者を飽きさせることがないと言えます。

読後の感想としては、2点が挙げられます。

１．アニミズムについて作者は触れていますが、肉体が滅んでも人の精神は生き残りその後輪廻転生していくとしており、大本でも同様に教えられています。

２．大本では、学則として

①天地の真象を観察して、真神の体を思考すべし

②万有の運化の毫差(ごうさ)無きを視て、真神の力を思考すべし

③活物の心性を覚悟して、真神の霊魂を思考すべし

また、宇宙の真理はどぶの中にも転がっている。と教えられています。

この本のタイトル「神はキリスト教の教会を持たない」の意味は、特に教会を持たなくても「森羅万象の中に神を見出すことが出来る。神を見ることは出来ないが、感じることは出来る」という意味かなと思いました。

Mesaĝo de UEA okaze de

la Internacia Tago por Eliminado de Rasa Diskriminacio

21 marto 2023

Ekde sia fondiĝo, Unuiĝintaj Nacioj laboras por eliminado de rasa diskriminacio, kaj tiu principo fundamentas ĉiujn internaciajn instrumentojn pri homaj rajtoj. La Universala Deklaracio de Homaj Rajtoj ja diras, ke "ĉiuj homoj estas denaske liberaj kaj egalaj laŭ digno kaj rajtoj", kaj ĝi specife malpermesas diferencigon laŭ raso. Kvankam oni abolis rasismajn leĝojn kaj kondutojn en multaj landoj, rasismo ne malaperis, kaj en ĉiu lando, homoj, komunumoj kaj socioj suferas pro tiu maljusteco.

La statuto de Universala Esperanto-Asocio, akceptita jam en 1947, unu jaron antaŭ la Universala Deklaracio, notis, ke "bonaj internaciaj rilatoj kaj la respekto de la homaj rajtoj, estas por la laboro de UEA esencaj kondiĉoj." Tio restas esenca principo de ĉiu nia laboro, kiu plene enkorpigas la Universalan Deklaracion de Homaj Rajtoj.

La batalo kontraŭ rasismo apartenas al ni ĉiuj. Registaroj, organizoj kaj homoj devas ne nur agnoski, sed ankaŭ konfirmi la rajtojn de ĉiuj. Novaj leĝoj, kutimoj kaj sintenoj necesas, por ke ni preventu kaj finfine elradikigu rasismon. En 2021, raporto de la Alta Komisionestro de UN por Homaj Rajtoj proponis tagordon por rasa justeco kaj egaleco, kun kvar punktoj: ĉesigi kulturojn de neado kaj malkonstrui sisteman rasismon per ŝanĝo de strukturoj, institucioj kaj kondutoj; fini senpunecon kaj konstrui konfidon; aŭskulti kaj protekti kontraŭrasismajn aktivulojn; alfronti la pasintecon kaj antaŭenigi riparon.

La Internacia Konvencio pri Elimino de Ĉiuj Formoj de Rasa Diskriminacio difinas rasan diskriminacion kiel "ajnan distingon, ekskludon, limigon aŭ preferon bazitan je raso, koloro, deveno, aŭ nacia aŭ etna origino". Tiuj diskriminacioj okazas en pluraj formoj, ofte ankaŭ lingve. Lastatempe, la Speciala Raportisto de UN pri Minoritatoj Fernand de Varennes deklaris, ke lingvaj rajtoj estas vive gravaj por minoritatoj kaj indiĝenaj popoloj: "Lingvoj estas esencaj iloj por komuniki kaj disdividi sciojn, memoraĵojn kaj historion, sed ili ankaŭ estas ŝlosilo por plena kaj egaleca partoprenado."

Elimino de rasismo kaj ĉiuj diskriminacioj estas esenca por krei pli bonan mondon por ĉiuj, mondon de libereco kaj egaleco. Ni laboru kune, por antaŭenigi la vojojn, ankaŭ lingvajn, de harmoniaj kunvivado, interkompreniĝo kaj solidareco.

ミニ講演会（報告）

総会に先立ち、午後3時30分から4時30分、ミニ講演会を開催しました。参加者は13人。講師およびテーマは下記のとおり。（表紙写真）

1.「ザメンホフ全集発刊50周年によせて」（永瀬義勝）
　名古屋エスペラントセンターが　ludovikito編ザメンホフ全集の発行に関わったことなど。（第1巻の改訂版をセンターが出しています）

2.「オンライン日本大会について」（堀田裕彦）
　オンラインと現地参加を併用することが実際にはどういうことになるかを最近の大会で比較。エスペラントの用語についても。

3.「トリノ観光案内」（伊藤俊彦）
　今年の大会が開かれるトリノについて、イタリアで留学経験をもつ伊藤さんが写真を交えて見どころなどを説明。

活動日誌（2月から4月）

2/10（金）17時半から19時半　中級学習会
2/21（火）19時から20時半　センター委員会（オンライン）
2/24（金）17時半から19時半　中級学習会
2/28（火）15時から16時　自由会話（オンライン）
2/28（火）16時から18時　読書会（オンライン）
3/10（金）17時半から19時半　中級学習会
3/12（日）15時半から16時半　ミニ講演会
3/12（日）17時から19時　維持員総会
3/24（金）17時半から19時半　中級学習会
3/29（水）11時から16時　花見・ランチ・読書会（伊藤宅）
4/7（金）17時半から19時半　中級学習会
4/18（火）15時から16時　自由会話（オンライン）
4/18（火）16時から18時　読書会（オンライン）
4/20（木）18時から19時　「センター通信」発送作業
4/20（木）19時から20時半　センター委員会
4/21（金）17時半から19時半　中級学習会

ご意見・近況

水谷良典さんより

先日の総会の時、「永瀬さんがエスペラント入門講座を開催され、その修了者に対して中級レベルへの橋渡しコースを終了時点で提供すること」を提案しました。

その橋渡し先を「**Ni parolu！**」（**ILEI Japanio** 主催）にすることを思いついたのですが、**ILEI Japanio** との協議が必要になります。

韓国ではこのようなシステムが既に出来上がっており、入門コースを卒業した人がどんどん育っているように思われます。この際日本でもこのようなシステムを構築してネットを利用したエスペラント教育が発展していくことを望みます。

森田明さんより

多事多難でボケているヒマが無いのが幸い。NEC一般会計へ、まことに少額ながら、カンパ（なつかしいコトバ）をしておきました。カンパは今後も続けるつもりです。

▶編集後記

○今まで長きにわたって印刷と発送作業をしていただいていた山田義さんは前号をもってその任を終えられました。どうもお疲れ様でした。今回より山口が印刷をします。発送については委員の有志で。○Mesaĝo de UEAは自由に配布印刷できる、とのことで、転載をさせていただきました。じっくりお読みいただきたいと願っています。○トリノ世界大会への参加者はまだ1000人を下回っている状態です。イタリアでいえばフィレンツェ大会（2006年）には2209人の参加者がありました。日本からは30人、とかなり低調です（NEC会員では4人）。かつては日本人参加者はドイツやフランスとならんで国別ランキングでは上位をしめていたのですが、これはコロナだけでなく経済的な影響もあるのではないかと思います。○JEIの「運動年鑑」（La Revuo Orienta 4月号）によれば、東海地方で活動をしている団体としては、残念ながら、当NECが唯一、となってしまいました。それだけに責務も重くなっているのでしょう。（山口）

センターの会員（維持員）募集中

A:月500円 ／ B:月1,000円 ／ C:月2,000円 ／ D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。